

クリーンプラザふじみの社会科見学を終えて ～授業での学びを生かして～

第4学年担任

社会科の授業で、ごみの処理と再利用の学習をしました。授業で学んだことをもとに、クリーンプラザふじみに社会科見学に行きました。子どもたちはバスに乗る前からわくわくした様子でした。巨大な煙突を間近で目にしたときには、あまりの大きさに子どもたちから驚きの声が上がっていました。煙突の他にも、ごみ収集車やごみピットの様子等、実物は迫力があり、多くの子が食いついて見ていました。見学で見たものを忘れないよう、一生懸命メモを残し、学習したことを子どもたちで話し合っている姿がとても素晴らしかったです。

社会科見学は、普段の生活では中々見ることはできないものを見ることができる貴重な体験の機会です。また、ごみ処理については1学期に社会科の授業で学習した内容でもあります。知識として学習した内容を、新聞にしてまとめる活動をしました。学習したことを思い出し、工夫しながら新聞を作成していました。1月には、2回目の社会科見学を控えています。楽しみながら、実りある学びの機会となるように担任一同指導してまいります。

「学び合う喜び」を感じられる学習を目指して

研究主任

通勤中の電車の中、辺りを見渡してみると「スマートフォンを見ていない人」を探すことが難しい状況があります。大人だけでなく、子どもたちも1人1台端末を持つ時代になりました。便利な端末が、私たちの生活を豊かにしてくれていますが、端末により自由に「やりたい」を叶えることができるようになった一方で、時に面倒に感じてしまうこともあります。いつの時代も変わらずに価値をもつものがあります。それは「他者」の存在です。「他者」を意識することによって、嫉妬、羞恥心、争い等が生じ、私たちは悩むことがあります。しかしながら、自分とは異なる「他者」がいるからこそ、「友達と一緒にやったから楽しかった」「友達が教えてくれてできるようになった」「自分では気づかなかったことを、友達が言っていた」など、「喜び」を感じられることもあります。インターネットを通して、様々な情報を得られる時代になったからこそ、個人で様々な知識を習得できる時代になったからこそ、学校では「他者とともに学び合う喜びを味わえるような学習を目指していきたい」と、私たち教職員は考えています。

そこで、今年度の八雲台小学校では、国語科を中心に「子どもたちが学び合う喜びを感じられる学習」を目指すことを決め、研究に取り組んでいます。少しだけ、保護者の皆様にも取組の内容をご紹介します。保護者の皆様は「ごんぎつね」という物語を覚えているでしょうか。百年近く学校で扱われているお話です。「ごんぎつね」は、お母さんしか家族がいない兵十が懸命にとったうなぎを、ごんというきつねが逃がしてしまうところから物語が始まります。その後、兵十のお母さんが亡くなったことを知ったごんは、「あのうなぎはお母さんに食べさせるつもりだったのか」と思い立ち、「ちよっ、あんないたずらをしなけりゃよかった」と後悔をします。そして、それからごんは兵十にいわしや栗を届け、償おうとします。しかし、残念ながら最後にごんは、兵十に火縄銃で撃たれてしまいます。そして有名な「青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました」という最後の一文で物語が閉じます。

さて、ここで保護者の皆様も一緒にお考えください。このときのごんは、どのような気持ちだったのでしょうか。兵十が撃ったことだけを書きたいのであれば、「けむり」に「青」という色をつける必要はありません。つつ口から出るけむりを、あえて「細く」と書く必要もありません。さらに、「まだ」という言葉も「必要ない」のかもしれませんが、では、それらの内容を伝えるだけなら消しても良い言葉たちは、何のために加えられているのでしょうか。きっと、そこに「撃たれた時のごんの気持ち」が隠れているのではないのでしょうか。子どもたちが想像する余白があるのだと考えられます。お子様は、どのような想像をするでしょうか。ついつい誰かと話したくなってしまういませんか。こんな「答えがひとつでない問い」や「想像がずれる問い」をきっかけに、私たちは子どもたちが「学び合う喜び」を感じられる学習を目指して研究しています。これからも授業改善に努めてまいりますので、引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。